

I. 平成29年度事業運営の特徴と課題

1-1 各保険事業の状況（清雅苑本体）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養 (稼働率)	29年	96.1	92.1	95.9	96.2	96.1	96.9	94.5	98.0	95.0	91.0	92.3	94.6	94.9
	28年	95.9	93.1	96.5	96.5	96.7	97.2	95.9	93.9	95.0	95.3	99.2	96.5	95.9
短期入所 (稼働率)	29年	113.3	127.4	108.9	111.8	85.5	94.4	116.1	81.1	107.0	146.2	161.3	124.2	114.8
	28年	117.2	146.8	117.8	102.7	115.6	110.0	118.8	142.8	115.1	121.0	85.7	79.6	114.4
施設計 (稼働率)	29年	97.2	94.5	96.8	97.3	95.3	96.7	96.0	96.8	95.8	94.7	97.0	96.6	96.2
	28年	97.4	96.8	97.9	97.0	98.0	98.0	97.5	97.2	96.4	97.1	98.3	95.4	97.2
通所 (稼働率)	29年	83.8	85.5	81.7	82.3	80.1	86.4	86.6	84.0	83.2	81.1	81.7	87.0	83.6
	28年	73.1	73.7	70.1	70.2	74.4	72.6	72.4	70.3	68.8	67.0	69.2	69.7	70.9
営業日数	29年	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310
	28年	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310
介護予防 プラン	29年	206	205	211	215	218	222	225	239	239	239	243	248	225.8
	28年	206	198	208	219	208	208	209	212	206	204	210	210	208.2
(直営)	29年	65	66	72	74	78	83	88	97	96	95	95	101	84.2
	28年	28	29	37	39	42	44	51	50	48	53	57	60	44.8
(委託)	29年	141	139	139	141	140	139	137	142	143	144	148	147	141.7
	28年	178	169	171	180	166	164	158	162	157	151	153	150	163.3

※平成29年度より、通所介護の一般型と認知症型を統合する。

1-2 各保険事業の状況（みやびやか旭） 平成23年5月開設

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
居宅介護 支援	29年	131	132	132	123	124	132	131	132	129	128	127	127	129
	28年	66	68	75	74	75	74	71	71	70	66	58	57	68.8
介護予防 プラン	29年	20	19	19	19	19	19	21	20	21	21	22	22	20.2
	28年	4	4	5	5	6	5	5	5	4	3	5	5	4.7
訪問介護 (時間)	29年	1431. 55	1583. 8	1506. 75	1465	1549. 25	1546. 75	1557. 05	1572. 75	1546. 25	1408. 25	1393. 75	1617. 5	1514. .9
	28年	1494. .5	1467. 8	1529. .5	1494. 3	1545. .3	1486. .8	1571	1603. .5	1614. .5	1458	1423. .8	1560. 8	1520. .8
営業日数	29年	25	27	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310
	28年	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310

※1 居宅介護支援・介護予防プランの数値は、ケアプラン作成件数を表示

※2 平成29年より居宅介護支援をみやびやか旭に統合する。

2-1 介護老人福祉施設の利用状況

平成29年度は、感染症を流行させないように予防策として、年間通してのヤクルトの飲用に着手しました。冬季に流行る感染症にかかることなくご利用者の健康は維持出来たと思われまます。ただ、29年度に関しては退所が30件と例年より多く、すぐに空床ベッドをうめることが出来ませんでした。短期間で入所できるように調整しておりましたが、待機している間に他の特養や老健への入所が決まったり、医療機関への入院が必要となり、辞退される方もおり、すぐに入所して頂くことが出来ない実情もありました。また、清瀬以外の区市の待機者がかなり少なくなってきたのも要因として考えられます。

今後も空床ベッドが発生した際、待機者の方がすぐに入所できるように上位待機者の状況をしっかりと把握していくことが大切なことと考えます。

29年度は、入所：30件、退所：30件、内15件は施設内での看取り介護を行いました。入退所件数は昨年より多く、年間平均稼働94.9%と1.0%低く推移しました。退所後すぐに空床ベッドをうめることが出来なかった

事が要因として考えられます。また、看取り介護についても年々件数が増えてきています。

2-2 短期入所生活介護の利用状況

昨年度に比べ、平均稼働率は114.9%と0.5%の増加でほぼ横ばい状態でした。夏場から冬にかけての期間にご利用者が少なくなり、ショートステイベッドの定員割れもみられることもありました。利用される実人数が増えるように、事業所への挨拶まわり、定期的な営業活動を行っていき、30年に入ってから徐々にご利用者の実人数が増えてきました。緊急での利用依頼も多くあり、その都度受け入れの対応をしています。主介護者の体調不良での緊急利用が多く、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のケアマネージャーの方と連携を取り、柔軟な受入を行っています。

2-3 通所介護の利用状況

29年度より認知症対応型デイサービスを休止し、一般デイサービスとして受け入れをさせていただくこととなり、定員は45名とさせていただきました。様々話し合い、形を変えてもご利用者の方々により良いサービスを提供できるようにレイアウトなど工夫いたしました。ご利用の皆様も新しい形に慣れてくださり、良い時間を過ごせる場所が出来たように思います。稼働は天候などに左右されつつ夏場は下がった時期もあり、平均して83.6%となりました。今後は適正な受け入れ枠を模索しつつ、さらに地域のニーズに応えていきたいと思っております。

2-4 きよせ清雅地域包括支援センターの活動状況

昨年同様、社会福祉士1名(兼務)、主任介護支援専門員2名、看護師1名、介護支援専門員1名の計5名体制で業務を遂行しています。介護予防支援計画数の委託率を総合事業も含め平成29年3月の71.4%から平成30年3月は59%と更に引き下げ、直営の介護予防支援計画費を算定することで増額となるように図りました。相談業務の件数と合わせて、全体のご利用件数は上昇しています。

事業に関しては清瀬市地域包括支援センターの運営事業・計画にのっとり、地域包括支援センターが公正・中立な立場を確保し、示された業務を円滑かつ適正に進めて参りました。中でも平成29年度から始めた「アウトリーチ事業」は包括支援センターや介護支援専門員による支援を受けていない方に対して、有意義な働きかけができる結果が得られています。また、住み慣れた地域で清瀬市の高齢者の複雑・多様化した課題を各委員会に参加し検討・協議して課題や問題の整理を行い、ご利用者に役立つ包括支援センターの構築を図りました。

他、清瀬市高齢者元気回復事業の委託を受け、活動の場が減少しがちな高齢者に対し、社会参加や活動の場を提供することをひとつのきつくとし、閉じこもりの予防、運動機能低下予防、認知機能の低下予防を目標とする教室「せいが中里元気塾」を毎週木曜日に実施し、利用者も定着して参りました。

平成29年10月から配置された「生活支援コーディネーター」は地域包括支援センターの「支え合いのしくみづくり」の中の「助け合い活動に掛かる研修会」及び「清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体」へ、着実に貢献と実績を上げています。

2-5 居宅介護支援事業(みやびやか旭)の利用状況

在宅介護支援センターを吸収合併し、常勤3名、非常勤2名の5名体制で運営を開始しました。年間プラン作成数1549件、月平均約128.8件と昨年比ではほぼ倍増しています。

日々の業務を通じては、末期癌の看取りケースや、ご本人やご家族に精神障害が合ったり、経済的困窮があるなど、介護だけでは解決が図れない多問題ケースが増えており、行政を始め、地域包括支援センター、その他の相談機関との連携の重要性を実感しています。

地域に根ざした事業運営という面では、職員体制に厚みが増したことで、窓口開設時間も増え、相談件数は平

成 28 年度 155 件から 318 件と倍増しています。

2-6 訪問介護事業（みやびやか旭）の利用状況

平成 29 年度は、派遣時間数の目標は、月間平均 1,550 時間と設定し、実績としては月間平均約 1,515 時間でした。新規の依頼は途切れなく頂きますが終了になるケースもあり変動があります。また、在宅で最後を過ごされる方の依頼もありスピーディで柔軟な対応を求められるケースもございました。

4 月からの総合事業への移行に伴い他事業者から利用者の受け入れを行いました。事業所が変わっても安心して生活していただけるようなスムーズな引継ぎ体制を整えました。

今後も訪問介護事業へのニーズは高いと考えております。そのニーズに応えるためにも登録ヘルパーの確保・人材の育成に力を入れてまいります。